

第10回EPA受入施設及び看護師・介護福祉士候補者調査

実施:

一般社団法人
外国人看護師・介護福祉士支援協議会

1. 調査の目的

今年度はEPAに基づく、インドネシア人第8陣～第10陣／フィリピン人第7陣～第9陣／ベトナム人第2陣～第4陣の看護師候補者と、EPAに基づく、インドネシア人第8陣～第10陣／フィリピン人第7陣～第9陣／ベトナム人第2陣～第4陣の介護福祉士候補者。そして、その候補者の受入施設を対象とした。

この調査は、受入施設間の情報共有を図って、今後の取り組みに資することを目的に、受入施設のEPA担当者及び候補者に対して調査を行ったものである。

2. 調査対象と方法

調査対象:		受入施設数	候補者数
第8陣(平成27年度)	インドネシア人看護師候補者	25	66
第9陣(平成28年度)	インドネシア人看護師候補者	21	46
第10陣(平成29年度)	インドネシア人看護師候補者	14	29
第7陣(平成27年度)	フィリピン人看護師候補者	30	75
第8陣(平成28年度)	フィリピン人看護師候補者	28	60
第9陣(平成29年度)	フィリピン人看護師候補者	17	34
第2陣(平成27年度)	ベトナム人看護師候補者	8	14
第3陣(平成28年度)	ベトナム人看護師候補者	10	18
第4陣(平成29年度)	ベトナム人看護師候補者	12	22
合計		165	364
第8陣(平成27年度)	インドネシア人介護福祉士候補者	86	212
第9陣(平成28年度)	インドネシア人介護福祉士候補者	99	233
第10陣(平成29年度)	インドネシア人介護福祉士候補者	123	295
第7陣(平成27年度)	フィリピン人介護福祉士候補者	90	218
第8陣(平成28年度)	フィリピン人介護福祉士候補者	116	276
第9陣(平成29年度)	フィリピン人介護福祉士候補者	141	276
第2陣(平成27年度)	ベトナム人介護福祉士候補者	58	138
第3陣(平成28年度)	ベトナム人介護福祉士候補者	79	162
第4陣(平成29年度)	ベトナム人介護福祉士候補者	78	181
合計		870	1991

配布方法: 郵送配布、郵送回収

調査時期: 2018年10月25日～11月22日

調査方法: 施設票1部と候補者票(配属人数分)を各受入施設に郵送した。
候補者票については、施設側に各候補者へのアンケート配布・回収をお願いした。
施設票、候補者票ともに返信用封筒にて回収を行った。

3. 調査内容

- ・調査票は、「受入施設票」と「看護師・介護福祉士候補者票」で構成。
- ・「受入施設票」は、EPAへの受入理由、満足度、帰国者の有無、候補者の日本語能力レベル、候補者を選ぶ基準、外国人看護師、介護福祉士が日本国内にて活躍していくことをどう思われるか等を調査内容とした。
- ・「候補者票」は、基本属性、来日後の問題点、日本語学習・国家試験学習に対する内容や進捗具合、今後どのような仕事をしたいか、日本以外で看護または介護の仕事をした国はあるか等を調査内容とした。
- ・「施設票」は、各受入施設の施設責任者、事務長、EPA担当者に回答を依頼した。
- ・「候補者票」は、各受入施設に候補者の配属人数分(帰国者含む)を送付し、全候補者に回答を依頼した。

4. 回収状況

受入施設票

	対象数	回収数	回収率
病院・施設	実数(重複除く) 551	161	29.2%

候補者票

	対象数	回収数	回収率
候補者	2355	612	26.0%

5. 本調査の問い合わせ先

一般社団法人 外国人看護師・介護福祉士支援協議会(略称:BimaCONC[ビマコンク])

TEL: 03-6666-8163 FAX: 03-3221-4717 E-mail: zen-kangokaigo@jjaec.jp

Copyright © 2014 BIMACONC All Rights Reserved.(無断使用・複製・転載・配布禁止)

目次

1	調査総評	P3
2	【看護師候補者 受入施設】	
	「EPAに基づく看護師・介護福祉士候補者調査」・・・集計表、自由記述	P4～P9
3	【介護福祉士候補者 受入施設】	
	「EPAに基づく看護師・介護福祉士候補者調査」・・・集計表、自由記述	P10～P19
4	【看護師・介護福祉士候補者】	
	「EPAに基づく看護師・介護福祉士候補者調査」・・・集計表、自由記述	P20～P28

調 査 総 評

一般社団法人

外国人看護師・介護福祉士支援協議会

EPA協定に基づく外国人看護師、介護福祉士候補者の受入れが、2008年のインドネシア人候補者第一陣の来日から10周年となった平成29年度は、インドネシア、フィリピン、ベトナムからの受け入れ総数837名、通算で5,500名を超えた。ここ数年来、特に介護福祉士候補者数増加率伸びが顕著である。

EPAは国の施策である安心感から、今後も続けていきたいと希望する声がある反面、喫緊の課題である医療・介護現場の人出不足解消の観点からのEPA候補者受け入れ検討という側面も否めず、「2国間の経済活動の連携の強化の観点から実施するもの」という政策目的と現場の乖離問題は引き続き改善の余地がある。

平成29年度は、いよいよ介護技能実習生の受け入れがスタートし、さらに政府が外国人受け入れ政策の大きな転換が急務であるとし、出入国管理法（入管法）改正案が衆院本会議で可決・成立、2019年4月から施行されることとなった。

これを踏まえて、本年度の調査では、EPA、技能実習、介護ビザの3通りの選択がある中でのEPA候補者受入れの継続意思など設問が追加されている。国ごとの受入れ最大数に対して求人数が増加しており、マッチングが難しくなっている中、複数のチャンネルに対応していくための情報収集に注目が集まっている。受入施設の回答は昨年同様、看護師候補者受入施設と介護福祉士候補者受入施設数のそれぞれの集計を出している。その概要は以下の通りである。

【Ⅰ】EPA候補者の人格、能力、モチベーションは高いと感じており、他の職員へ良い影響も与えている。外国人材を受け入れることにより、日本人介護職員の意識改革となり、質の向上に影響することが分かってきた。介護職の人手不足は深刻で、日本人の他職種の給与水準が上がっていることから、ますます日本人は採用が難しくなっている。将来的に外国人材に頼らざるを得ないだろう。

【Ⅱ】国家試験を受験し合格しても、合格後の滞在期間は3年未満が50%以上。帰国したい理由としては、家族、結婚、妊娠などが挙げられている。しかしながら候補者の大多数において、EPAは快適な制度と思われる。受入れ先での就労については、大半が満足しているとの声が上がった。日本語の壁や国家試験の合格は大変だと感じるが、3年の期間を日本で就労することには満足しているようだ。

【Ⅲ】国家資格を取得後の定着には、日本の介護施設での就労を希望する声も多いが、介護の場合、要件として看護学校卒であるため看護師業務への憧れも多い。候補者の定着率向上のために期待する点として、日本語、給与面のサポートを希望する声が多く見受けられると共に、将来的な母国からの家族呼び寄せ支援なども挙げられた。就労先と候補者の双方が定着を望んでいる場合や、国家試験に変わる定着のための講習などを希望する声もあった。

2017年11月1日から技能実習制度に介護職種が追加された。政府の政策的バックアップの下、優秀な人材を確保でき即戦力として計算できる点がメリットのEPAではあるが、対象国ごとの受入れ最大数に対して求人数が増加しており、マッチングが難しくなっている中、確保できなかった分を、実際に介護技能実習生の採用で充当することを既に決定した施設もある。技能実習生受け入れについては、日本語能力の伸ばし方、適切な実習生の人選と育成に経験豊富な、実績のある監理団体選定が重要といえる。

技能実習制度の介護職受入が開始されたことにより、今までEPAでの受入れが出来なかった事業所でも、外国人がさまざまな介護職ニーズに対応することとなる。受け入れる側と外国人の双方が共に働く今までのあり方に加えて、新たに技能移行を目的とした人材育成に携わる意義を理解し、EPAと技能実習制度ならびに介護ビザそれぞれの特性を存分に活用できる社会となることを期待する。

以上

「EPAに基づく看護師・介護福祉士候補者」集計表
～【看護師候補者 受入施設 回答】～

問1 貴施設は以下のどれに該当しますか。

	回答数	構成比
(1) 病院	32	97.0%
(2) 特別養護老人ホーム		0.0%
(3) 老人保健施設		0.0%
(4) 障害者施設		0.0%
(5) 介護療養型医療施設		0.0%
(6) その他	1	3.0%
計	33	100.0%
その他 重症心身障害児（者）施設		

問2 受け入れていらっしゃる候補者は、以下のどれにあたりますか。

	回答数	構成比
(1) インドネシア人第8陣（平成27年度来日）看護師候補者	32	24.4%
(2) インドネシア人第9陣（平成28年度来日）看護師候補者	19	14.5%
(3) インドネシア人第10陣（平成29年度来日）看護師候補者	9	6.9%
(4) フィリピン人第7陣（平成27年度来日）看護師候補者	21	16.0%
(5) フィリピン人第8陣（平成28年度来日）看護師候補者	33	25.2%
(6) フィリピン人第9陣（平成29年度来日）看護師候補者	7	5.3%
(7) ベトナム人第2陣（平成27年度来日）看護師候補者	2	1.5%
(8) ベトナム人第3陣（平成28年度来日）看護師候補者	5	3.8%
(9) ベトナム人第4陣（平成29年度来日）看護師候補者	3	2.3%
計	131	100.0%

問3 既に帰国した候補者がいる場合はご記入ください。

	回答数	構成比
(1) 既に帰国した候補者がいる→ 問4へ	24	88.9%
(2) 帰国した候補者はいない→ 問6へ	3	11.1%
計	27	100.0%

問4 帰国についての申し出はどちらからありましたか。

	回答数	構成比
(1) 候補者	18	94.7%
(2) 受入れ病院・施設		0.0%
(3) 双方	1	5.3%
計	19	100.0%

問5 帰国した候補者の帰国理由で次の内あてはまるものをお選びください。

	回答数	構成比
(1) 本人の健康上の理由	3	8.8%
(2) 家族に関する理由	13	38.2%
(3) 日本の生活になじめなかったため	3	8.8%
(4) 職場環境になじめなかったため	4	11.8%
(5) 収入や待遇が期待と違っていたため		0.0%
(6) 仕事の内容が期待と違っていたため		0.0%
(7) 国家試験に合格できないと判断したため	5	14.7%
(8) EPA期間満了	4	11.8%
(9) その他	2	5.9%
計	34	100.0%
その他		
・自身の結婚		
・妊娠、出産		

問6. EPA候補者の受入れをされる理由は何ですか？

	回答数	構成比
(1) <u>将来的な</u> マンパワー不足の解消のため	15	25.0%
(2) <u>現在の</u> 人材不足解消のため	12	20.0%
(3) 国際貢献	23	38.3%
(4) 候補者を受入ることによっての他職員の意識改革（資格取得等）	9	15.0%
(5) 人材育成の見直し	1	1.7%
(6) その他		0.0%
計	60	100.0%

問7. 外国人を採用するにあたって、初年度に必要と思われる日本語能力はどれくらいですか？

	回答数	構成比
(1) 日常の会話ができる程度の日本語能力	16	44.4%
(2) 読み書きは難しいが、指示されたことが理解できる日本語能力	16	44.4%
(3) 記録作成ができる日本語能力	4	11.1%
(4) 日本語能力は問わない		0.0%
(5) その他		0.0%
計	36	100.0%

問8. 候補者の国家試験受験学習体制についてお聞かせください。

	回答数	構成比
(1) 病院、施設内にて教育担当がおり、十分な指導ができる体制をとっている。	15	28.3%
(2) 病院、施設内に教育担当はいるが、他業務に追われ満足いく教育が出来ない状況。	15	28.3%
(3) 外部に委託（外部講師、予備校など）しているが、費用が高く困っている。	2	3.8%
(4) 外部に委託をしたいが、近隣に適当な機関がない。	4	7.5%
(5) 学習時間を設け、自習を行わせている。	12	22.6%
(6) その他	5	9.4%
計	53	100.0%
その他		
・外部にも委託している		
・月に1回看護学校にて学習		
・教育担当1名に週1回(5時間)、十分な指導とは言えない。教育と生活の面における担当は1名常勤であるが、他の業務もあり充分ではない。		
・外部講師に委託している。		
・日本語学習を、通信教育とSkype授業を行う外部業者に依頼している。		

問9. 看護師候補者受入れご担当の方にお聞きします。

候補者が看護師国家試験に合格をした場合(合格している場合も含める)、引き続き看護師として就労をしてもらうことを望まれますか？

	回答数	構成比
(1) 最低でも3年～5年は看護師として務めてほしい。	18	48.6%
(2) 日本に定住をし、看護師としてのキャリアを伸ばしてほしい。	4	10.8%
(3) 本人が望むのであれば、今後も看護師として務めてほしい。	14	37.8%
(4) 看護師として務めてほしいとは思いますが、引き続き就労してもらうのは難しい。	1	2.7%
計	37	100.0%
・当院は急性期病院であり、様々な治療形態や処置などをEPA候補者が理解するのが難しいため。		

問10. 候補者が国家試験を取得した場合、帰国をせずに有資格者として定着するために、何か取り組んでいること、または検討していることはありますか？

	回答数	構成比
(1) 日本語教育の更なるサポート	16	44.4%
(2) 日本人同様に責任のあるポジションを用意	3	8.3%
(3) 給与体系の見直し、手当での増額	4	11.1%
(4) 既婚者に対して、母国からの配偶者・子供の呼び寄せ支援。	10	27.8%
(5) その他	3	8.3%
計	36	100.0%

- その他
- ・地域に馴染むことができるよう、サークル活動への参加を促している。
 - ・悩みや不安をすぐに相談できる体制づくり
 - ・看護師としての採用を約束、資格取得後の即戦力になれるよう教育している

問11. 総合的にみて、EPA候補者を受け入れたことに満足していますか。

	回答数	構成比
(1) 満足	4	12.5%
(2) どちらかといえば満足	16	50.0%
(3) どちらともいえない	11	34.4%
(4) どちらかといえば不満	1	3.1%
(5) 不満		0.0%
計	32	100.0%

問12. 2017年11月1日より技能実習新制度に介護職種が追加されました。また、介護福祉士養成校を卒業し介護福祉士の資格を取得した外国人に対しては、介護ビザでの在留資格が認められました。外国人介護職の確保としては、EPA、技能実習、介護ビザの3通りの選択がありますが、今後もEPA候補者の受入れを続けていけますか？また、その理由をお聞かせください。(EPA候補者を受入れるメリット、技能実習生についての考え方、介護ビザ利用への不安など)〔自由記述〕

・当院では介護士の受入れはしておりませんが、個人的な意見として介護士の方を希望します(看護師よりも)。理由は、フィリピンの方はとても明るくて優しい、本当によく働きます。介護福祉士をとり、がんばって欲しいです。

・EPA候補生は受け入れない。なかなか合格できないこと、教える側にも負担が大きいため。技能実習生は受け入れる予定。

・現在介護福祉士の候補生は受け入れていないが、介護を必要とする患者も多く、今後考えられる人員不足に対応できる様、受け入れを考えていく必要があると思う。当院では、EPA看護師としての先輩がいる状況で、大変働いてくれてます。今後も受け入れできるならしていきたい。

・継続予定。マッチングが難しくなってきた。技能実習生に、国試対策の為の学習を、EPA候補者と同様に行うのは困難と思う。また、当人が希望して、やる気があるかどうか現状で不明。

・国際厚生事業団によるカリキュラムは、具体的で学習支援に十分に役立っております。合格後のサポートも充分にして下さるため、積極的にEPA看護師候補者の受け入れは考えていきたいと考えます。資格取得後のサポートも充分に実施して頂けるため、EPAの体制はとても良いと実感しております。

・EPAは継続する。留学生の介護ビザによる入職も実施。技能実習生については当面採用しない。EPAについては実績もあり、候補者については信頼がおけるので重視したい。

・EPA候補者の受け入れについては、職員のモチベーション向上にもつながりますので続けていければと思いますが、勉強面でのサポートが十分にできないという難しさがあります。技能実習生や介護ビザへの知識がまだ少ないので、情報を頂ける機会があれば嬉しく思います。

・EPA候補者は国際厚生事業団より学習支援他サポートが受入れ施設にもあるので、助かる点がメリットである。

・平成30年度、フィリピン人EPA看護師受け入れで終了する予定。平成22年度よりEPA受け入れしているが、病院への定着率が低く、労力かける割には成果がうすい。病院職員との考え方の相違もあり、協力が得られにくい。病院全体としての士気があがらない。

・看護師候補生として、日本語能力を身につけてから研修・実務に臨んでほしい。例えライセンスを取得しても、患者さんのニーズを把握できるようになるには時間がかかると思う。

・今後EPAを受入れる予定は今のところない。

・日本人看護師の入職希望者は非常に少なくなっており、将来的なマンパワー不足解消の為に、今後もEPA候補者の受け入れを考えています。受入れた当初は、日本人職員の意識改革の面もありましたが、最近では彼らがいることが当たり前となっており、現在その効果があるとは思えません。着任後2年目で合格出来るように様々なサポートをしているつもりでも、3~4年となる方も少なくなく、国際貢献という面もあります。

・EPA候補者を引き続き受入れる予定。国の施策への協力として、と考えている。マッチングなどのプロセスや、JICWELSなどの支援体制も信頼できるものであり、まだ不慣れな当院としては、いくつもの制度を活用するのは難しい。

問13 その他 ご自由にご意見をお書きください。

・当院は過去に4名のフィリピン人候補生を受け入れました。合格者は1名、2名は途中帰国して残り1名は不合格でした。不合格者は病院から1年の延長を打診しましたが家族が帰国を望みまた本人も結婚を理由に帰国しました。合格者は当院に2年ほど勤務していましたが妊娠・出産を理由に帰国しました。出産後も当院での勤務を希望していましたが配偶者にビザや就労先が探せない問題、出産後の近親者のいない状態での育児等、日本滞在には多くの問題を抱え本人達では解決するのは難しいという結論に達し帰国の途につきました。

私はこの4名の日本語と国家試験対策の担当をしていました。日本語の壁は本人達が考えていた以上に大きく月日経つほど自信を失い本来理解しているはずの基礎的知識も日本語の前にかき消されていました。文化の違いや考え方、基本的な日常生活や環境の違いに日に翻弄され大きな苦勞とストレスを感じていたと思います。ホームシックにも何度もなり来日した目的を見失っていつことも多々見られました。病院側も研修以外に日常生活の支援やモチベーションを落とさないように細やかな指導とお世話をする事に努力しましたが大きな結果を残すことは出来ませんでした。

途中帰国者や不合格者、合格しても妊娠・出産で帰国せざる者、そして高いハードルの国家試験に合格しても自国に帰国することを決断する優秀な外国人看護師達、この現状に対してEPAに関わった者としてとてもとても残念に思います。フィリピン人や東南アジアの人達は家族との繋がりが強く、また来日当初は日本で看護師資格を取得するという目標を持っていても研修期間中に自分が置かれている立場に落胆して研修途中で出稼ぎ的な感覚になる人も多くいると聞きました。国の血税で行われているこのプロジェクトが10年近く経っても思ったような結果を残せず本当に残念としか言いようがありません。

安倍政権は外国人単純労働者に対して180度方向転換して受け入れを表明しました。しかしEPAの候補生は特殊な専門技術を持った自国ではエリート看護師です。この人達を指導するエキスパートが多く育ち外国人看護師が日本で幸せに仕事出来るよう基本的な生活の基盤と法整備に近い将来構築されることを切に願っています。

・満足に指導を行なえてない現状を認識しているが、経営者(管理者ではない)の意向もあり、受け入れ続けなければならない実状がある。

・候補者の学習時間は確保しているが、それのみ。候補者は良い子達で、何か思いはあるのだろうが言っていない。

・第3者が、きちんと受け入れ施設を評価し、判定をする事(受け入れるのにふさわしい能力があるのか、必要ならば指導が入るなど)

・実際に就労している候補者が、就労先に言えないでいる思いをくみ取り、助けてあげられるような方法を検討して頂きたいと思います。(個人メールあてのアンケートなど)候補者の返答内容が分かってしまう調査では十分でないと考えます。

・国として受け入れをすすめるには、しっかり日本語教育できるサポート体制、学習支援が必要だと思う。現場で教えるには難しすぎる。
同じような書類を国、県、BimaCONC、JICWELSなど、各々に提出するなどのムダが多い。もっと情報共有できるシステムが欲しい。

・残念ながら1名色々なことがあり、帰国してしまいました。H28年度来日した数名は、日本語能力も高く、意欲もありました。又、H28年途中で入国した候補生は、日本語能力、読み、書き、発音も不安定で、あまり日本語能力もよくないので、国家試験や資格試験などがクリアできるのか心配です。せつかく来日してくれてるので、看護師として働いてほしいとも思います。

・ベトナム第2陣の候補者は、非常に物事に取り組んでおります。平成20年にインドネシアから2名受け入れましたが、資格取得せず帰国してしまいました。
今回ベトナム第2陣の候補者を受入れて、国民性からか本人の資質なのか不明ですが、全てに真面目な姿勢で取り組んでおります。したがって受け入れの機会の際はベトナムの候補者を希望したいと考えております。

・EPAに基づく看護師候補者の国家試験合格率が低すぎる。日本語の解決がむずかしい。解決すると答えは見い出せる。EPAへの研修も充実されているが、勉強しても成果が上がらず、もう少し加点されてもよいのではないのでしょうか？

・学習時間の確保と指導が不十分であるため、候補者に対して申し訳なく思っています。

・現場としてのフォロー体制の不足を感じるため、EPA担当が別に必要になってきており、日本語のサポートなど国として何か援助していただける制度があるとよいと思う。

・過疎地域ですので、やはり人材確保が最優先となってしまうがちなのですが、受け入れる候補者の方たちがこの町を好きになって、一緒に住民としてHappyに暮らしてくれことが望みです。本国の家族を心配する気持ちは当然あるでしょうが、私たちと同じ条件で働くことにより、家族に貢献できることも大きいようなので、「2つの居場所を持っている」と思って頑張りたいと思います。

・インドネシア看護師候補者を受け入れており、彼らの性格や勤務態度はまじめで、現場としては大変助かっております。
しかし勉強に対しては、こちらの体制(指導にだけ専念できる看護師がいない)も不十分であり厳しい面も多い。自己で実力をつけてもらわないといけない部分がある。日本語がもっと通じるのであれば、勉強を教える面もスムーズにできるのではないかと思います。

「EPAに基づく看護師・介護福祉士候補者」集計表
 ～【介護福祉士候補者 受入施設 回答】～

問1 貴施設は以下のどれに該当しますか。

	回答数	構成比
(1) 病院	1	0.8%
(2) 特別養護老人ホーム	82	64.6%
(3) 老人保健施設	31	24.4%
(4) 障害者施設	12	9.4%
(5) 介護療養型医療施設	1	0.8%
(6) その他		0.0%
計	127	100.0%
その他 介護付有料老人ホーム 認知症対応型 共同生活介護		

問2 受け入れていらっしゃる候補者は、以下のどれにあたりますか。

	回答数	構成比
(1) インドネシア人第8陣（平成27年度来日）介護福祉士候補者	54	10.7%
(2) インドネシア人第9陣（平成28年度来日）介護福祉士候補者	62	12.3%
(3) インドネシア人第10陣（平成29年度来日）介護福祉士候補者	63	12.5%
(4) フィリピン人第7陣（平成27年度来日）介護福祉士候補者	51	10.1%
(5) フィリピン人第8陣（平成28年度来日）介護福祉士候補者	60	11.9%
(6) フィリピン人第9陣（平成29年度来日）介護福祉士候補者	82	16.2%
(7) ベトナム人第2陣（平成27年度来日）介護福祉士候補者	37	7.3%
(8) ベトナム人第3陣（平成28年度来日）介護福祉士候補者	42	8.3%
(9) ベトナム人第4陣（平成29年度来日）介護福祉士候補者	55	10.9%
計	506	100.0%

問3 既に帰国した候補者がいる場合はご記入ください。

	回答数	構成比
(1) 既に帰国した候補者がいる→ 問4へ	35	79.5%
(2) 帰国した候補者はいない→ 問6へ	9	20.5%
計	44	100.0%

問4 帰国についての申し出はどちらからありましたか。

	回答数	構成比
(1) 候補者	23	88.5%
(2) 受入れ病院・施設	1	3.8%
(3) 双方	2	7.7%
計	26	100.0%

問5 帰国した候補者の帰国理由で次の内あてはまるものをお選びください。

	回答数	構成比
(1) 本人の健康上の理由	10	22.2%
(2) 家族に関する理由	12	26.7%
(3) 日本の生活になじめなかったため	6	13.3%
(4) 職場環境になじめなかったため	4	8.9%
(5) 収入や待遇が期待と違っていたため	2	4.4%
(6) 仕事の内容が期待と違っていたため	2	4.4%
(7) 国家試験に合格できないと判断したため	1	2.2%
(8) EPA期間満了	1	2.2%
(9) その他	7	15.6%
計	45	100.0%
その他		
・結婚、出産		
・サービス規定に違反する行為があった為		
・一時帰国したら連絡が取れずそのままになってしまった。		
・治安悪化による		
・ホームシック		
・自己都合		
・妊娠したため、本人がEPAプログラムを終了し帰国したいと希望		

問6. EPA候補者の受入れをされる理由は何ですか？

	回答数	構成比
(1) 将来的なマンパワー不足の解消のため	91	34.1%
(2) 現在の人材不足解消のため	69	25.8%
(3) 国際貢献	44	16.5%
(4) 候補者を受入ることによっての他職員の意識改革（資格取得等）	48	18.0%
(5) 人材育成の見直し	12	4.5%
(6) その他	3	1.1%
計	267	100.0%
・能力があっても仕事やチャンスが与えられない海外の女性を支援したい		
・EPAの方の介護が素晴らしいので		
・国の政策への拠力		

問7. 外国人を採用するにあたって、初年度に必要なと思われる日本語能力はどれくらいですか？

	回答数	構成比
(1) 日常の会話ができる程度の日本語能力	50	35.2%
(2) 読み書きは難しいが、指示されたことが理解できる日本語能力	70	49.3%
(3) 記録作成ができる日本語能力	19	13.4%
(4) 日本語能力は問わない		0.0%
(5) その他	3	2.1%
計	142	100.0%

その他 ・N3レベル相当は必要

・入国後、日常生活の中で学び、読解力を身につけていく姿勢が大切です。

問8. 候補者の国家試験受験学習体制についてお聞かせください。

	回答数	構成比
(1) 病院、施設内にて教育担当がおり、十分な指導ができる体制をとっている。	45	25.1%
(2) 病院、施設内に教育担当はいるが、他業務に追われ満足のない教育が出来ない状況。	49	27.4%
(3) 外部に委託（外部講師、予備校など）しているが、費用が高く困っている。	25	14.0%
(4) 外部に委託をしたいが、近隣に適当な機関がない。	6	3.4%
(5) 学習時間を設け、自習を行わせている。	31	17.3%
(6) その他	23	12.8%
計	179	100.0%

その他 ・月2回、外部講師を依頼している。

・外部委託は現在、講師が来てくれるか検討中。

・日本語ボランティア(外部)に、週2回×2時間お願いしている。

・外部に委託しており、費用に困っていない。

・自己学習に加え、専門講師など受験対策に力を入れている。

・日本語学習の為の外部講師がいる。

・日本語講師、国家試験対策を外部講師にて行っている。

・週に1回日本語ボランティアによる学習

・外部講師に一部委託している

・外部に委託(講師)し、学習の時間を設けている。

・外部の日本語教師を委託しているが、施設職員にて試験対策の授業も行っている。法人として、N3の合格までは業務内での勉強もサポートしている。

・試験後の答え合わせしか出来ていないため、自施設にて調整の必要性を感じている。

・適正な金額で通学している。

**問10. 介護福祉士候補者受入れご担当の方にお聞きします。
候補者が介護福祉士国家試験に合格をした場合(合格している場合も含める)、引き続き介護福祉士として就労をしてもらうことを望まれますか？**

	回答数	構成比
(1) 最低でも3年～5年は介護福祉士として務めてほしい。	49	31.8%
(2) このまま日本に定住をして、介護福祉士としてのキャリアを伸ばしてほしい。	57	37.0%
(3) 本人が望むのであれば、今後も介護福祉士として務めてほしい。	47	30.5%
(4) 介護福祉士として務めてほしいと思うが、引き続き就労してもらうことは難しい。	1	0.6%
計	154	100.0%

問11. 問9、問10にて引き続き就労してもらうのは難しいとお答えになられた方にお聞きします。就労させることが難しい理由をお聞かせください。(自由記述)

- ・両親の心配、結婚のこと、続けて就労するときの問題になる。
- ・合格に至るまでが困難
- ・大部分が本国に結婚、家族の関係で帰国する

問12. 候補者が国家資格を取得した後、帰国をせずに有資格者として定着するために、何か取り組んでいること、または検討していることはありますか？

	回答数	構成比
(1) 日本語教育の更なるサポート	24	14.1%
(2) 日本人同様に責任のあるポジションを用意	46	27.1%
(3) 給与体系の見直し、手当での増額	55	32.4%
(4) 既婚者に対して、母国からの配偶者・子供の呼び寄せ支援。	27	15.9%
(5) その他	18	10.6%
計	170	100.0%

- その他
- ・まだ取得者がいない
 - ・今は特にない
 - ・検討中
 - ・生活サポートの継続、日本人とあらゆる面で同等の扱い
 - ・継続して就労したいと思わせる環境作り
 - ・産休、育休者への保育所入所手続きサポートなど
 - ・海外にはない介護福祉士の専門性を伝えている
 - ・施設独自の支援はなし。法人としては検討している
 - ・生活支援 住居等
 - ・家族と住むアパートを一緒に探し、契約など生活面でもサポートを行っています。
 - ・一年に一度の帰国(10～14日間)

問13. 総合的にみて、EPA候補者を受け入れたことに満足していますか。

	回答数	構成比
(1) 満足	55	42.0%
(2) どちらかといえば満足	61	46.6%
(3) どちらともいえない	15	11.5%
(4) どちらかといえば不満		0.0%
(5) 不満		0.0%
計	131	100.0%

問14. 2017年11月1日より技能実習新制度に介護職種が追加されました。また、介護福祉士養成校を卒業し介護福祉士の資格を取得した外国人に対しては、介護ビザでの在留資格が認められました。外国人介護職の確保としては、EPA、技能実習、介護ビザの3通りの選択がありますが、今後もEPA候補者の受入れを続けていけますか？また、その理由をお聞かせください。(EPA候補者を受入れるメリット、技能実習生についての考え方、介護ビザ利用への不安など)〔自由記述〕

- ・今後もEPAを受入れたい。集合研修や助成金など支援体制があるため。
- ・EPAは勉強面も含めてサポートが充実している。ただ法人としては、技能実習・介護ビザも検討している。
- ・介護福祉士養成校を卒業し資格がある方の方が正直、現場としては助かります。
- ・EPA候補生は日本語レベルが高い。
- ・今後も続ける予定。施設職員の意識も変わり、介護現場からの評価も良い。
- ・継続予定。マッチングが難しくなっている。技能実習生の受入れも始めた。まだ様子がわからない。
- ・EPAにまず専念したいと思います。
- ・EPAと技能実習の併用で当分すすめたいと思う。
- ・EPAを継続する。受け入れ期間・制度ともに実情にあっている為。
- ・3種の中でEPAが最も費用がかからないから。
- ・今後の介護職不足を考えると、EPA候補者の受け入れは継続していきたいと考える。現在、フィリピンの方を受け入れているが、とても真面目に業務を行っているから。
- ・理事長の意向により、EPA候補者の受け入れを継続する予定である。
- ・EPA候補生たちは真面目で、入所者からしても外国人という抵抗は少なく、十分介護職員として対応していける。
- ・将来的なマンパワー不足の解消のため、EPA候補生を受け入れていきたい。遠い海外からの受け入れということで、文化の違いなど候補者、施設側双方に心配事があるが、EPAでの受け入れは中間機関が信頼でき、何か困ったことがあれば相談できる事、受け入れの際の注意点や候補者の情報もわかりやすいことがメリットと感じる。
- ・EPA候補者の日本語の理解が、他の外国人の方より進んでいると思われる。施設での日本語教育(基本的な)は限界が有ると感じている。
- ・今後の施設の方向性の確認が必要であり、判断しづらい。(本部が決定するため)
- ・EPA介護福祉士候補者は、資格取得という目標がある為、勉強に対する意欲も高いと感じている為、今後も受け入れたいと考えている。

- ・受入れたい。EPAの人はしっかりしているから。
- ・EPAに関してはJICWELSのサポートがしっかりしているので、安心して受け入れる事が可能である。
- ・今後の動向に関しては、施設単体での決定ではなく事業団としての判断となります。
- ・今のところ、EPA介護福祉士候補者の受け入れを続けて行く予定。H21年度からの受け入れ実績があり、現地訪問も行い、国際厚生事業団の支援体制と合わせ、安定した準備・教育体制があるため。
- ・EPA候補者が在籍中はEPA候補者のみで。技能実習、介護ビザなど制度の違う形で受け入れると、学習支援等が統一できずに困ると思う。
- ・EPAは続けていきたい、が・・・高い旅費を使い、現地面接してもEPAの方を確保(マッチング)できないことに対し不満に思う。現地説明せずにマッチングできるなら、そちらの方が得ですから。今年、フィリピン・インドネシアに行きましたが結果は、、、
- ・EPAは学習支援の環境が整っているため継続したい。
技能実習、介護ビザとは待遇が異なってしまうため、同施設で共存することは難しいと思う。
- ・EPA: 事前からの学習等踏まえ、安心した受け入れが出来ています。
- ・3種の在留資格にはそれぞれメリット・デメリットがあり、EPAのいを継続というのではなく、良い人材を得るために柔軟な取り組みが必要と考えます。
- ・今後もEPA候補者を受け入れていく予定です。基礎的な日本語教育をされており、ご入居者、ご家族からの評判も良いです。また、礼儀正しく、日本人職員にも良い影響がみられました。
- ・EPAの受入れを続けます。法人用では留学生のアルバイトの受入れを始める施設もありますが、当施設は山の中の交通の便のない所なので留学生は無理で、技能実習生は手間がひまがかかり、あまり進んでいません。
- ・EPA候補者を受け入れることで、施設の業務全体を見直し改善していくことに繋がっている。受け入れる側として、技能実習生と混在ということになると、教育指導の流れ、レベルに不安はある。
- ・EPAは国の施策で安心感がある。その他のルートは将来的に考えることもあるだろうが、今のところ考えてはいない。
- ・EPAの魅力は人材の質、初期投資の低さ。逆に、競争力の高さと日本語・試験対策に時間を取られることなどのデメリットを理解した上で、今後も参入したい。技能実習生は、EPA同等の入国条件でなければ不安が多すぎるので、相当の覚悟と準備が必要であると共に、高額な監理費で負担が重い。留学生は、技能実習生の経費と同じくらいなので、2～3年の育成期間として見れば留学生を必ず選択する。
- ・今後もEPA受入れを続けたい。候補者の人格、能力、共に高くモチベーションも高いと感じています。受け入れるまでの費用も安く、国際厚生事業団のフォローも充実している。他の職員への意識も良い。
- ・EPA候補者の受入れを今後も検討中。介護技能実習生の受入れ準備中。EPA候補者は業務に対して役割を遂行する努力を惜しまない。勉強に対しても意欲的であり真面目で優しい。
- ・将来に渡って人材不足を解消するため今後もEPA受入れを検討しています。EPAについては比較的高い日本語能力でスタートするので助かります。技能実習は受入れを予定していますが、初めてのため不安があります。
- ・法人の考え方なので今後についてははっきりわかりません。EPAを通じて現在17名が勤務していますが、現在の人数以上は受け入れられないが、今後退職する人数に応じてこれからも受入れを考えているとのことです。
- ・EPAのこれまでの受入れ実績による信頼度の高さをまず一番にあげます。技能十種性は介護分野としてはこれからという未知の部分に不安を感じています。継続的な監理料の経費的負担も懸念材料です。介護ビザ取得までの学校費用について補助体制が必要になるなど、確立した受入れ体制の整備が課題です。
- ・EPA候補者受入れを続ける。他の在留資格に比べ、日本語能力が確保されている。
- ・EPA候補者を受入れしていきたい。メリットは①人材不足に対応してくれている。②能力が高い(特に日本語の理解力)③補助金が使えらる。

・EPA介護福祉士候補者を受け入れていきたい。ただ単に就労する、国家試験に合格する、だけではなく、福祉の考え方など施設業務以外での専門性を習得し、日本で引き続き就労してもフィリピンに帰国しても、介護福祉士として活躍できる人になってほしいと考えます。

・EPAの受入れは国家間の協定であり、安心できる。

・現時点、EPA候補者は優秀と思われる。技能実習生は能力にばらつきが多いのではないかと。介護ビザの方に関しては良く分からないが、日本語が出来てやる気があるようなら採用したい。どの制度の方に関してもだが、外国の方に選んでもらえる制度にして欲しい。

・EPAはマッチングの成立が難しくなっているため、留学生、技能実習生へのシフトを検討している。

EPA候補者を既に受け入れている施設としては、技能実習制度、介護ビザの方は、日本でスキルや資格を有していても、本国に技術を持ち帰る意義がないのでは？と心配します。EPAのやり方は、手間やお金もかかりますが、士気や質は技能実習、介護ビザよりは良いイメージがある。

・EPA介護福祉士候補者は一定の能力が確立された研修面でのバックアップ等、受入れ上の安心感がある。しかし、国ごとの受入れ最大数に対して求人数が増加しており、マッチング成功率が厳しくなっている。そのため技能実習生や留学生等、外国人就労者の受入れについて、複数のチャンネルに対応していけるように準備をしていく必要があると考えます。

・技能実習生の問題が連日報道されており大変不安です。

・EPAに関しては引き続き受入れを継続したいと考えております。理由としては、今後も引き続き人手不足も考えられる事もありますが、介護福祉士を目指し頑張っている姿勢について、日本人の職員にも良い影響があると考えられるからです。

・やはり将来的なマンパワー不足は深刻です。また、日本人の職員募集をしても他業種の給与が高騰していることから、なかなか希望する者がいない状況。今後外国人に頼らざるを得ません。

・EPA候補者は今後も受け入れキャリアUPしてほしい。技能実習生に対しても受け入れる方向である。技能実習生に対しての日本語の支援、介護に対しての教育支援、生活面のサポートも考えていかなければと考えている。

・EPAについては費用的に安価で良いと思うが、今後、受入れ希望施設の増加により、マッチングが難しくなる。技能実習生の受入れも併行して行わなければ、人材確保は難しいと思う。

・EPAの受入れは続けていきたい。理由として、来日初期より関わることで、施設の雰囲気や職場環境に慣れるまで余裕を持って教育することができ、また資格取得後は即戦力として働いて頂けるメリットを感じている。また現在受け入れているインドネシア人は人柄が良く、介護人材としての能力が高いため、日本人職員としても見習うべきところがあるため。

・EPA候補者の受入れは継続していきたい。地域柄、人口減少は将来的にも深刻な問題となっている。高齢者の介護を担う重要な人材となることはまちがいない。

・EPA候補者の受入れを継続したいが、求人事業者が多く確保が困難となっています。EPA候補者は、母体組織、仕組みともに実績があり、安心安定。今迄6名の候補生を受け入れてきましたが、皆真面目で優秀な人材です。継続として受け入れていい

・EPAを最優先で受け入れたいが、マッチングが難しくなっている。優秀な人材も多いので、可能であれば今後も受け入れを継続したい。技能実習生に関しては、同法人のデイサービス部門で受け入れを開始しているが、実際、ベトナムにも視察に行き現状を把握した上で、ちゃんとした教育及び、生活指導を行わないと(待遇も含め)失踪、犯罪のみならず、日本語取得のみという、目的の人材になってしまうリスクを感じています。

・継続予定、マッチングが困難となってきた。技能実習生もグループ内、他施設で受け入れているが、まだ対応前で様子はわからない。

・受入れ経路は様々だが、とくにどのコースが優秀とか優劣はないように思うので、可能な限り人材獲得の機会を持ちたいと思う。

・今後も続けていきたいと考えています。EPAという事で、フォローがしっかりしている事です。又、他の2通りの方法も考えていくつもりです。

・技能実習生、介護ビザでの受け入れを行ったことはないので、特に定まった考えは持っていない。EPAについては、日本語での意思疎通が概ね図れる程度で入職してもらえるので、即戦力として計算できる点がメリットと考えている。

・EPAの継続受け入れを考えている。N3～N2レベルの候補生であり、介護の基礎を学んでいるので、現場の業務にスムーズに入ることができる。簡単な日本語ができるので、職員とのコミュニケーションがはかれる。

・今後もEPA介護福祉士候補者は受け入れていく予定である。その理由として、EPA候補者は国家試験の受験を前提としているからである。技能実習生は、その部分がないため、受け入れには慎重な対応が必要と考えてしまう。

・今後技能実習生が増え、特定技能2号が始まると、徐々に集約された採用になると思っています。組織体系、業務範囲を明確にし、働きやすい環境、生活面のサポートを整えることが必要と考えます。また、日本語学習はEPA程はできませんが、何かしら学習支援が大切になると思っています。

・今後もEPA候補者の受け入れを続けていきたい。EPAのメリットとしては、優秀な人材を確保できること。受け入れを続けたい理由としては、まじめに働いていただける戦力となる人材を確保していきたいから。

・今後も、制度を積極的に活用していきたい。現在の状況は、出稼ぎ目的だけでなく、目標をもって来日している方が多く見受けられる為、能力の高い方が来日し、非常に助かっている。技能実習制度にも期待しているが、現在国会審議中が多々見られるため、毎日注視しているところである。

・EPA制度に比べると、技能実習生の日本語能力は低いように感じられるので、現在の日本語能力(EPA)を考えるとEPA制度の方が良いと思います。

・EPAに関しては今後も受け入れていきたいと考えるが、技能実習生については、そもそも目的が技術移転であり、労働力の確保ではない事。又、技能実習生の失踪等の問題もあり、他にも多くのトラブルが発生している事を考えると、「介護」という職種には合っていないのではと思われる。養成校卒業者は、志もあり、受け入れてみたい。

・EPA候補者の方が、手前の教育がしっかりなされた状態で来日している。技能実習生は、受け入れまでに、受け入れ施設職員の研修もあり、事前準備が大変そう。

・受入れたいとも思うが、EPA制度自体制限が多すぎる。今後、EPA介護福祉士となった場合、そのメンバーを軸として技能実習生を迎え入れ、教育・指導をしていき対応していきたい。

・法人本部の指示にもよるが、現場サイドとしては、外国人介護職の受入れをする際はEPA候補者を選択したい。受け入れ実績があることもそうだが、各制度の職員が混在した場合、制度による処遇の違いからトラブルに発展する懸念がある上に、どう対処すべきか苦慮するものと感じている。

・今後もEPAの受入れを続ける。国際厚生事業団が基礎をしっかりと教えて送り出してくれる。施設側も6年間の実績があるので続ける。

・今後も受け入れを継続していく予定である。メリット:働き手として増員すること・外国人候補者を受け入れることで、日本人職員の外国人介護職員に対する意識も変化する。(今後、外国人の介護職員は候補者以外にも増えていくと思うが、彼らに対して日本人職員が'慣れた'状態で接することができる)

・EPAの制度がいつまで続くのか、今年度もEPAの獲得はかなり難しくなっている様に感じます。質も下がってくるのではないかと考えてしまいます。入所時にN3相当の日本語能力があり、学習・業務習得も比較的スムーズである。身元が保証されている。技能実習生が全部とはいいいませんが、中には日本に来ることが目的という方もいる様に感じる為。

・EPAの受入れを続けていく予定です。技能実習生等は日本語のレベルに不安があるので。

・受入れを続けていきたいと考えます。問6にもあるように、マンパワー不足はすでに始まりかけている状況です。外国人が介護をするという不安は当初はありましたが、今ではすっかり受け入れられている状況です。日本人と全く変わらない職を行っていますので、良い意識改革にもなっています。

・今後、受入れの予定はない。小さい法人である当施設では、職員の負担が多いため

・社団として新年来、EPAを受け入れて教育体制がしっかりしている。技能実習生、介護ビザは実績がないため不安。

・EPA候補者を受け入れるメリット・政府の政策的なバックアップが強いこと・補助金が受けられる・介護士としての人員確保ができる(資格取得後)・施設に来る前に日本語教育のサポートをしてくれる

・今後も継続してEPA候補生の受入れを行うつもりです。技能実習生についても検討していますが、EPA候補生に対しての法人からの支援がかなりボリュームがあり、違う体制で入社してくる外国人に対して、並行して支援を行うことに不安があり、現在足踏み状態となっております。

・EPAの受入れは継続したいが、今後制度的な面で受け入れが難しくなってくるのは目に見えている。技能実習生もそうだが、留学生の扱いに注目、実施していきたい。

・3つの入口ができますが、入国の段で本人たちの状況が異なります。介護の仕事を円滑に行うためには、最低N2は必要です。その状態をつくることで仕事の内容も変わります。ですから3つの入口ごとに給与でも差ができます。最終的に状態、状況がそろえば、それぞれの受入れを考えています。いずれにしても、人材確保の観点と優良な支援体制をつくるのが大事だと考えます。

・受入れたい。質の向上のためにも。他職員が感化される。

・EPA受入れを継続予定。就労者の学歴、資格の担保があり、国際厚生事業団のサポートがあるので良い。技能実習は現地でのような募集をしているのか安心できないので、質の担保となる部分がない。

・EPA候補者の受け入れを今後も続ける予定です。メリットとしては、大学を卒業されているので語学力がある点です。

・EPAの場合;受け入れもとがしっかりしている。教育の体制も整ってきており、勉強の教材も良い。今後も受け入れを継続していきたい。技能実習生、介護ビザを取得する者の受入れも決定していません。EPAのように制度が安定するまでは不安があります。

・次年度は技能実習生を6名程入れる予定で進めています。今いるインドネシアの方々が国家試験に合格できるよう、勤務時間を割いてまで勉強する時間を作ってきましたが、現状としてなかなか向上できず悩みます。技能実習生に関しては、この学習がありませんので、負担も少なく思います。法人の一般職と同じ受験対策講座にて勉強できる為。

問15 その他 ご自由にご意見をお書きください。

- ・候補者は仕事へ真面目に取り組んで頂いているので、他職員からも頼りにされています。
- ・EPA候補者一人につき助成金の制度はあるが、ほとんどが通学に使ってしまう。生活支援や、支援する職員の手当てとして助成制度を充実させてほしい。
また、一か国年間300人というワクを広げてほしい。ベトナム人は200人程度しかこないのに求人は800件出ている、採用倍率が特に高い。
- ・仕事や人に接する態度には、日本人以上の丁寧さを感じる事も多い。言葉の問題は時間とともに少なくなり、良い面が多く見られる。
業務中の勉強時間を週5時間確保しており、職場全体での理解はさらに必要と感じています。
- ・平成29年2名、平成30年2名、計4名のベトナム人候補者はとても優秀である。しかし、現場レベルでの人材不足と、利用者の介護度3以上による負担は年々高くなっている。福祉のイメージと経済効果も重なり、福祉は深刻な状態となりました。4～5年後は外国人の方が多く勤務されると思うので、その準備と日本人スタッフの理解を得られる努力をしていきたい。
- ・EPAにしる技能実習にしる外国人材に対してどのような姿勢で相対するのが問われてくると思います。単なる労働力的な視点で採用すると同じように働く日本人スタッフにも悪い影響が出るように思います。
- ・技能実習生についての情報が少ないため、今後の動向が分かりにくい。
- ・現在2名を受け入れています。ベトナムの介護福祉士合格者の先輩が2名在籍しています。この2名の先輩がいることで、新しい候補者たちも相談相手があり、心強く安心できるようです。2名の候補者は1年以上が過ぎ、日本語も上達し、入居者との会話、支援などスムーズにできています。国家試験に一度で合格できるよう、環境整備と協力を日本人スタッフも行っていきたいです。今ではベトナム候補者というより、スタッフとしてとても大切な人員であり仲間です。
- ・国の介護人材受入れ施策が目まぐるしく変化していく中で、介護人材受入れのチャンネルが増えるのは有り難い反面、最適な受け入れ方法を法人が選択できる課程での模索は続きます。指針となる機関があればと願うところです。
- ・候補者の一時帰国に関して、事前相談なく決めて休みの希望を出すことがあった。
- ・私生活において(休暇・金銭)等に関し、EPA生として守られており、法人として対応に苦慮しております。
- ・日本語能力の面で、フィリピンとベトナムに大きな差があると感じる。
- ・日本の文化や風習に対する理解が薄い。
- ・EPAで国家試験合格後も日本語学習を続けてもらいたいが、講座や研修を開いてもなかなか参加して頂けない。参加者に手当がつかないことも原因だが、手当が出たとしても合格者が参加するとは言えない様子がある。
- ・候補者に対しての学習についてだが、現在補助金が出るが、インターネット環境やPC費用などの初期投資だけで、かなり高額になってしまう。せめて倍額にしてもらわないと施設の負担が増え、費用対効果の面から見ると低いと思われる。また学習に関わる職員の時間外も同様である。
- ・外国人介護人材を受け入れることにより、日本人介護職員の質も向上していかなければならない。これまで、日本人介護職員は、自分たちで質の向上を目指すという動きがあまり見られなかった。しかし、ここ数年の外国人人材の受入れにより、やっと自ら質の向上について考えるようになったと感じる。今後も、外国人の受入れにより、日本人にプレッシャーを与え続けなければならない。
- ・今は、既に帰国してしまった、以前いたEPA候補生の支援は、本当に大変だった。(自己主張ばかり強かった。協力性に欠けた。)今いる候補生は、5人とも頭も良く仕事もでき、とても頑張っている。何よりも人柄が良いので、支援している私達も「頑張ろう」と思える。今いる5人のような外国人なら、EPAにこだわらず、受け入れても良いと思う。5人だから人数的にも丁度良いのかもしれない。
- ・予算の面で難しいのだとは思いますが、EPAの受入れ枠を増やさないと、この先難しい。現状でもそうになっている。

「EPAに基づく看護師・介護福祉士候補者」集計表
 ～【候補者 回答】～

問1 あなたの職場はどれですか。

	回答数	構成比
(1) 病院	114	18.8%
(2) 特別養護老人ホーム	326	53.9%
(3) 老人保健施設	121	20.0%
(4) 介護療養型医療施設	8	1.3%
(5) 障害者施設	34	5.6%
(6) その他	2	0.3%
計	605	100.0%

問2 年齢

	回答数	構成比
(1) ～25歳以下	108	17.7%
(2) 26歳～30歳	413	67.8%
(3) 31歳～35歳	77	12.6%
(4) 36歳以上	11	1.8%
計	609	100.0%

問3 性別

	回答数	構成比
(1) 男	154	25.3%
(2) 女	454	74.7%
計	608	100.0%

問4 あなたは何年度に入国しましたか。

	回答数	構成比
(1) 平成27年度（2015年）	163	27.0%
(2) 平成28年度（2016年）	220	36.5%
(3) 平成29年度（2017年）	220	36.5%
計	603	100.0%

問5 あなたの国籍を教えてください。

	回答数	構成比
(1) インドネシア	213	35.1%
(2) フィリピン	261	43.1%
(3) ベトナム	132	21.8%
計	606	100.0%

問6 これからの計画、希望について聞かせてください。

	回答数	構成比
(1) 国家試験に合格をして、これからも10年以上は日本で仕事をしたい	261	42.8%
(2) 国家試験に合格して、1～3年くらい日本で仕事をしたい	268	43.9%
(3) EPA滞在期間（3年、4年）が終わったら帰国をしたい	71	11.6%
(4) 今すぐにでも帰国をしたい	10	1.6%
計	610	100.0%

問7 問6で「今すぐにでも帰国をしたい」と答えた方にお聞きします。なぜ、帰国をしようと思ったのですか？

	回答数	構成比
(1) 日本での生活が合わない。	1	6.3%
(2) 勉強が辛い。	2	12.5%
(3) 仕事が辛い。	4	25.0%
(4) 病院、施設の日本人職員との関係がうまくいかない。		0.0%
(5) 母国の家族が心配だから。	3	18.8%
(6) その他	6	37.5%
計	16	100.0%

- その他
- ・仕事が大丈夫ですが勉強あわせて無理です。
 - ・しばらく2年間家にやすみますから
 - ・広い場面に使われる日本語をまだ理解することができない所が多いです。
 - ・私は3年間ここで働いているのに、3年間で1週間のバケーションしかもらえなかった。背中が痛くなるのが辛い。
 - ・ダンナさんの病気を心配しています。
 - ・特に私の息子です。
 - ・大きな災害があったので、家も半分くらい倒れて家族が心配です。

問8 なぜEPAに応募をしたのですか？

	回答数	構成比
(1) 日本に行きたかったから。日本文化に興味があったから。	237	28.3%
(2) 日本の医療、介護技術は進んでいるため、現場で学んで帰国後に母国で使いたいから。	166	19.9%
(3) 日本の医療、介護の現場ですっと働きたいから。	68	8.1%
(4) 日本語を話せるようになって、帰国したら日本の会社(病院以外)に勤めたいから。	68	8.1%
(5) 日本はお給料が良いからEPA候補者の間だけ働いてお金を貯めたいから。	124	14.8%
(6) 日本に長く住んで日本の病院や介護施設で働きたかったから。	148	17.7%
(7) その他	25	3.0%
計	836	100.0%

- その他
- ・外国で働きたいから。そして日本はフィリピンから近いですから選びました。
 - ・日本の病院や施設が安定していると思いますので、日本で働きたいです。また日本の医療制度はとても良いと思います。
 - ・国では看護師として勤めるのができない。EPAに応募したのは色々なことを勉強できるから。
 - ・フィリピンにいる家族の支援のため
 - ・日本に交換留学した時に皆さんが優しくしてくれたことを恩返しするため
 - ・当時、就職活動が出来なかったからです
 - ・日本は良い国ですから、日本で働いて、とてもいいチャンスです
 - ・他の国とくらべて日本は安全です
 - ・アニメが好きだから
 - ・専門的發展
 - ・友達に誘われました。やってみたら、だんだん興味がありますから
 - ・キャリア成長
 - ・無料だから。
 - ・家族のために。自分のために。外国でチャレンジしたい。
 - ・小学生6年生から日本の事が大好きだからです。
 - ・日本は良い国だと思っているので住みたいですから。
 - ・日本の医療を勉強したいと思って、知識のため。
 - ・家族への送金の為
 - ・息子のため
 - ・フィリピンだけでなく、海外でも有能な看護師になるためです。
 - ・前から外国で働きたかったから。
 - ・親族がいるから
 - ・日本の生活を知りたかったから
 - ・かぞくのしょうらいのため

問9 今後どのような仕事をしたいと思いますか。

	回答数	構成比
(1) 日本で看護師として働きたい	198	28.6%
(2) 日本で介護福祉士として働きたい	248	35.8%
(3) 日本で日本語を活かした別の仕事をしてみたい	51	7.4%
(4) 母国に帰って看護師として働きたい	54	7.8%
(5) 母国に帰って介護の仕事を広めたい	28	4.0%
(6) 母国に帰って日本語を活かした別の仕事をしてみたい (例：日系企業など)	71	10.2%
(7) 日本で大学に入学したい	17	2.5%
(8) 母国で大学に入学したい	11	1.6%
(9) その他	15	2.2%
計	693	100.0%

- ・受入れ法人で初めての医療通訳者として働きたい
- ・自業務
- ・英語－日本語翻訳者の仕事をしてみたい。
- ・国家試験が失敗したら、ほかの国を働きます。

- ・まず介護の仕事しながら日本語レベル上げて、正看護師として働きたい
- ・海外で看護として働きたい
- ・日本語能力全然上達しないから、残念ですが仕事辞めた方がいいと思います。その後少し休んで、今後どうすればいいのかちゃんと考えていきます。
- ・別の英語圏で看護師として働きたい
- ・現在勤めている法人で、人事系(外国人に関する)の仕事をしたい。
- ・日本語翻訳者として働きたい。
- ・どこの国でも看護師として働きたい。
- ・まだ考えてない。
- ・母国で実業家になりたいです

問10 みなさんにお聞きします。日本の病院または施設で、看護師・介護福祉士として働くことに関して、どう思っているか教えてください。

	回答数	構成比
(1) 日本の病院・施設で、看護師・介護福祉士として働く自信がある	440	73.2%
(2) 日本の病院・施設で、看護師・介護福祉士として働く自信がない、または不安である	136	22.6%
(3) あまり日本の病院・施設で看護師・介護福祉士として働きたくない	25	4.2%
計	601	100.0%

- ・看護師として働きたいけど自信がない

問11 介護福祉士候補者の方にお聞きします。国家試験の合否に関わらず、EPA期間を終えた後の自分の進路に関して、どう思っているか教えてください。

	回答数	構成比
(1) 日本の介護施設で働いていきたい。	233	43.4%
(2) 母国に戻り、介護の知識を広めたい。	56	10.4%
(3) 母国に戻り、看護師として働きたい。	87	16.2%
(4) 日本の病院で看護師として働くことが夢である。	121	22.5%
(5) その他	40	7.4%
計	537	100.0%

- ・まだ考えています。
- ・日本の病院または介護施設で、医療通訳者として働きたい。
- ・日本の介護施設で1~3年間働いて母国に戻り、介護の知識を広めたい
- ・一応帰国します。その後、日本の会社で働くか、また日本に戻って別の仕事をします。
- ・他の仕事がしたい
- ・母国に戻り、介護ではない仕事をしたいと思います。
- ・ひみつ
- ・新人のEPAの先生として働くことが夢である
- ・社会福祉士を勉強したいです。
- ・日本語に関する仕事をしたいと思います。
- ・母国に戻り、自営業や農業として働きたい。
- ・母国で介護の先生をやりたい。

- ・日本語の先生になりたい。
- ・お金を貯めたいから、もうちょっと働きたい。
- ・カナダで母と一緒に住みます。

問12 みなさんにお聞きします。国家試験に合格して、日本の病院または施設で就労する場合に、病院または施設に対して、何か期待することはありますか？

	回答数	構成比
(1) 日本語教育のサポートをしてほしい	228	31.8%
(2) 日本人同様に、責任のあるポジションを用意してほしい	58	8.1%
(3) 給与体系の見直し、手当での増額をしてほしい	197	27.4%
(4) 母国からの配偶者・子供の呼び寄せ支援をしてほしい	103	14.3%
(5) 特になし	122	17.0%
(6) その他	10	1.4%
計	718	100.0%
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験に合格して契約を更改したら、すぐに有給休暇を取得できることを希望します。 ・婚約者と結婚した後、呼び寄せ支援をしてほしい ・N2かN1まで日本語能力勉強してほしい ・1年に1回母国へ帰らせてほしい。 ・1年に1回、2週間くらい母国へ帰りたい。 ・介護福祉士にたいして、看護師になるための勉強やサポートをして欲しい。 ・料金とか家賃を自分ではらうことになる ・休みの事 ・介護の技術や知識を向上させてほしい。 	

問13-1 毎日の平均的な学習時間を教えてください。〔平日(仕事のある日)〕

	回答数	構成比
(1) なし	61	10.2%
(2) 1時間	190	31.8%
(3) 2時間	196	32.8%
(4) 3時間	76	12.7%
(5) 4時間	38	6.4%
(6) 5時間以上	36	6.0%
計	597	100.0%

問13-2 毎日の平均的な学習時間を教えてください。〔休日(仕事のない日)〕

	回答数	構成比
(1) なし	38	7.1%
(2) 1時間	83	15.5%
(3) 2時間	138	25.7%
(4) 3時間	81	15.1%
(5) 4時間	88	16.4%
(6) 5時間以上	109	20.3%
計	537	100.0%

問14 今の学習時間についてどう考えていますか。

	回答数	構成比
(1) 十分足りている	224	37.6%
(2) もっと時間がほしい	299	50.2%
(3) 今はあまり勉強をしていない	64	10.7%
(4) 国家試験の受験よりも現場で技術を学びたいので、勉強はあまりしていない。	9	1.5%
計	596	100.0%

問15 EPAに基づく候補者として日本に来たことに満足していますか。

	回答数	構成比
(1) 満足	209	34.8%
(2) どちらかといえば満足	296	49.3%
(3) どちらともいえない	91	15.1%
(4) どちらかといえば不満	4	0.7%
(5) 不満	1	0.2%
計	601	100.0%

問16 国家試験に合格したら、結婚をして家族を日本に呼んで生活をしたいですか？

	回答数	構成比
(1) はい、配偶者を呼びたいです。もしくは、既に配偶者を呼んでいます。ずっと日本で生活をしたいです。	171	30.2%
(2) はい、配偶者を呼びたいです。もしくは、既に配偶者を呼んでいます。ですが、数年で帰国したいです。	229	40.5%
(3) いいえ、配偶者を呼びたいですが、難しいと思います。離れて生活をします。もしくは今も離れて生活をしていません。	50	8.8%
(4) いいえ、家族のために帰国をし、母国で暮らします。	93	16.4%
(5) 日本国籍の異性と結婚をし、日本に永住したいです。	23	4.1%
計	566	100.0%

- ・ いいえ、結婚したくないです。
- ・ 結婚をするかどうか、まだ分かりません。
- ・ 結婚したら国に帰るかもしれません。
- ・ 考え中

問17 その他、ご自由にご意見をお書きください。

・もし日本の法律がEPA候補者の滞在できる年限を厳しく縛らないように変わってくれたら良いと思います。
もっと長く働きたい人達には期間を延長できるようにし、帰国したい人達は帰らせれば良いと思います。
その方が日本が負担する年間のEPAトレーニングにかかる費用を削減させるのにずっと役立つと思います。

・日本の介護職員は足りなくなりますので、国家試験はまだ必要ですか？国家試験の代わりに、介護の研修によく参加（例えば：カンファレンス、セミナー）でも十分ではありませんか？それになると、介護職員がだんだん増えて来ます。必要なら、国家試験をやさしくしてほしい。

・私はEPAプログラムに感謝しています。が、勉強時間と勉強の材料において提言があります。
私はもっと漢字を、特に日本語検定に出る感じを学びたいです。また、そのような漢字や日本語を復習できるウェブサイトが欲しいです。

・勉強することは私にとって興味深く、また挑戦しがいがあることです。しかし最近私は、多くのテストに疲れ切っています。勉強しながら働くのはとても大変です。
私はまだまだ多くのことを勉強しなければならないことを知っています。でもこれでもまだ足りないというなら、私はこの仕事におけるゴールを見直すことにより、精神的な休息が欲しいです。私は辞めたいわけではないのです、ただ疲れているのです。

・もし可能なら、EPA看護師が1ヶ月の帰国休暇を所得させてもらえればベストだと思います。なぜなら、他の国で働いている外交人看護師には、そのような権益を持っている方もいるからです。

・EPAプログラムには、5年まで延長して欲しいです。日本語を舌が回るように、日本に長く留まる必要があるだと思います。

・日本の文化と生活のことが好きなので、長い時間で日本に住みたいです。
国家試験に合格したら、ずっと今の同じ施設で働きたいです。

・私は日本で働き、この施設に参加して、チャンスを与えられたことに感謝しています。私は本当に介護福祉士国家試験に合格したいです。日本語と介護の勉強をいっしょけんめい頑張っています。

・まだ先のことが分からないんです。自分もなにも計画がなくて、時折、今すぐに帰りたいという気持ちがあるし、もう少し頑張ってEPAの期間が終わってから帰国すると思っていたりしています。

・国家試験に合格するかどうかにかかわらず、受入れ施設と候補者がOKだったらオープンけいやくにして欲しい。

・日本はとてもいいだと思います。日本の生活はすきだけど、家族のことなので帰国を決めます。帰るときも日本語べんきょうします。どうもありがとうございます。

・合格しなかったら、一年延長がほしくて、その間にまた一所懸命勉強します。もし合格したら、1~2年くらい日本で働きたいです。

・学習時間は十分足りてますが、学習場所用意してほしいです。現在は食堂で学習していますから、人がたくさん来て、うるさいので集中できません。

・日本で働かせてもらって素晴らしい文化や美しい人間付き合いを経験でき、私は毎日感謝しています。

・家族に会いたいから、できれば1年1回国へ帰りたいです。

・いつもありがとうございます。

- ・日本で仕事したいんですが、帰国の休日ができないので、母親が心配になってきた。「母国で仕事して」といわれた。もし1年1回帰国あって、家族も安心と思います。
- ・国家試験に合格したいです。
- ・数年後、国家試験は任意であると良いと思う。又、セミナー等に参加すれば日本介護の技術を学ぶようになると良いと思う。
- ・もし日本人と結婚したら、日本に永住しますが、日本にいる間にベトナム人と結婚するかまだ結婚しない場合は、ベトナムに帰ると思います。
- ・元々看護師で、もし介護福祉士資格を取ったら日本で看護師資格を取りたいです。日本で看護師として働きたいです。
- ・勉強のところ、ちょっと、クラスとかほしいです。
- ・今まで色々な事をもらっていただきありがとうございました。この施設で働くのはとても満足です。職場で他職員はとても優しいし、色々な事を教えてもらいます。私の目的は国家試験に合格したいですが、国家試験の本と問題本があったら、とても助かります。
- ・4年間お世話になっております。どうもありがとうございます。
- ・もし国家試験に合格したあとでできることがあれば、配偶者を呼びたいが、配偶者が合う仕事があるかどうか困っています。だから、どうすればいいですか。配偶者のため仕事を探すのは、JICWELSからとか政府から何かサポートがあるといいです。
- ・仕事しながら勉強はもちろん大変です。3年間に夜勤がしばらくやってなかったら国家試験に向かう準備がスムーズにできると思う。
- ・仕事は1年になって来て色々な設備をしてくださってありがとうございました。仕事はもちろん大変になって来るんですけど頑張っています。
- ・今まで日本語が上手ではありません。いつも休みの時、日本語を復習しています。国家試験のために、日本語や日本文化や専門語などを勉強しています。今からもっともっと日本語を練習したいです。
- ・勉強の時間がもっとほしいです。
- ・事態によって変更することは可能である。
- ・国家試験合格したら、ずっと日本で生活したいけど、妻はインドネシアで生活したいと言われて、前の約束してた妻は変わったです。私は日本の事が好きだけど家族が一番大切です。
- ・新しいEPAの人達にマッチングする前、それぞれの施設や病院の仕事のながれをめいかくにしてほしい。施設や病院は、おいのりの時間の有無の説明が必要。
- ・息子を呼びたいです。施設の方と一緒に仕事をするのは楽しいです。皆さんは新設でフレンドリーです。私が属していると感じさせますが、難しいと思うことのは、皆さんが私には馴染みのない方言を使用しているということです。しかし、残りは大丈夫です。もっと頑張らなければなりません。
- ・もともとはベトナムで看護に関する専門を勉強していたので、もし介護の国家試験に合格したら、看護の国家試験も受けたいと思います。

・日本の施設で働きたいです。介護福祉士を続けたいですが、国家試験に合格かどうか分からないです。今のところまで勉強しています。本当に国家試験が難しいです。私は今3年目ですけど、ユニットの仕事の事は経験がなかった。(遅番と夜勤が分からなかった)国家試験の問題をやる時に、よく間違っていました。今はすごく心配です。

・私の勤めている施設の労働者は優しいです。だから私はいつも努めています。ずっと働きたいです。

・国家試験を合格が必要と一番の目的と知っているのに、試験と日本語がほうとうに難しいと思います。ですから、候補者が准看護師試験を受かった場合は、4年間の延長だけでなく、本人がまた日本と現在の職場で働きたかったら、ずっと働ける。制限なしならいいと思う。

・今まで1年間過ぎましたが、JICWELSや施設などにも勉強から生活までもお世話して頂いて、よかったです。

・日本で仕事をつづけたいですが日本語が難しかったです。心配もあります。今は障害者施設で研修してます。他の利用者さんは自分のことを分かってますが、声かけが必要な利用者さん多いらしいです。指示が間違いたら

・一年ごとに11月に研修を行うのではなくて、一年2回ぐらい研修を行ったほうが良いと思っています。1回目は勉強方法について、先生が勉強の内容の概要を教えられる。2回目は勉強の経過を確認する。

・国家試験の前に、3年目から勉強時間を増やしてほしい。施設の方は、私の部屋についてもう一回考えてもらいたい。

・介護の国家私見は4年間のうち1回だけですので、もう1回増やしてほしい。それとも、5年間への変更してほしい。私たちは看護の資格を持っているので、看護の国家試験でもチャレンジしたい。

・おいのり時間があつたら助かります。

・日本の生活は楽しいですが、介護士としてあまりしたくない。国家試験に合格してから、仕事は続けるか、母国に帰りたいか、まだ分からない。

・勉強時間は仕事時外を避けてもらいたいと思う。疲れて勉強に集中できないからです。

・元々、職場で勉強する時間は働く時間ですが、最近、勉強する時間は仕事の時間外になりました。疲れましたので、授業に参加しても効果がありません。

・日本の物価が高いのに対して、手取りが少ないです。しかも、2年目からの候補者達は住民税を引かれますから、生活は本当にきついです。他の施設は職員が安定生活を送る為、色んな改善をしました。例えば夜勤に入らせたり、残業させたりしています。今、候補者達は国家試験に向けて勉強していますから、沢山夜勤に入らせてもらっても無理だと思いますが、出来れば一か月に2回ぐらい入れて欲しいです。

・日本で介護との仕事について、働ける人があまり少ないと思います。しかし、外国人をたくさん募集しているんですが、平均給料がまだ低いと思います。だから、外国人たちは日本に来て、収入がなかなかいぜんしないとすぐ帰国したいです。もし、そのせいで変えれば、外国人の生活が安定になると思います。また、日本に長い間仕事をしたいと思います。

・給料がもっと高かったら、もっと長く日本に住みたいです。

・今の生活はいいと思います。勉強の時間もあるし、とてもいいですが、試験問題をしたほうがもっといいと思います。